

2019年5月 (No.359)

主な内容とページ

メモリの大型調整、そして米中貿易戦争、増大する不確定要因	1
リーマンショック並みの落ち込み	2
非実装の貿易は比較的堅調	3
世界は混とん、日本はイベント目白押し	4
第1四半期世界主要 34 社中、赤字は 5 社うち日系 4 社	5
不透明さが増加、第1四半期結果	9
米大手利益率は 19% 超	9
異分野融合(SRL だより).....	13

メモリの大型調整、そして米中貿易戦争、増大する不確定要因

半導体市場は、メモリ市場の調整に加えて米中貿易戦争など不確定要因が増大している。

1. 世界の半導体市場の第1四半期は、メモリ市場の落ち込みが直撃。半導体全体でもリーマンショック並みの鈍化がみられた。
2. メモリ市場の調整は続行、米中貿易戦争による混乱は今後の半導体需要の悪化につながる懸念が高まっている。
3. 日本市場はエレクトロニクス関連機器の生産は低調だが、車載用など堅調で、貿易紛争などの影響が懸念されるもののイベントも多く、明暗混在だ。

異分野融合

「私の専門の質量分析は異分野融合の代表例。他分野とのコミュニケーション力をいや応なしに身につけることになった」2002年にノーベル化学賞受賞の島津製作所の田中耕一さんの記事(日刊工業新聞 12年8月19日付けコラム欄)が印象に残っている。

田中さんは、最近になって新たな研究成果(アルツハイマー病の早期発見)で再び世界的に注目されている。同氏の場合は修士号も博士号も持たない(他の受賞者と異なり)のに賞を贈られ脚光を浴びたが、ご本人は違和感から苦しみ、沈黙を続けてきた。それでも地道に研究を重ね、壁を乗り越えた。もともと電気工学が専門だが、化学の研究を命ぜられ偶然あるいは他分野との結びつきが新発見をもたらした。

半導体も異分野融合の傾向が顕著。とくに車分野はパワー、制御、通信、AV全て半導体絡み。車技術者は、ソフト、デジタル、半導体技術等は、異質の苦手分野。半導体側は、1トンもの鉄の塊を安全に動かし、俊敏堅牢廉価な機械を作る技術はやはり異分野。いや応なく異分野融合が進み、双方の理解、協力が求められる。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL(半導体総合研究所)ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報をSRL(半導体総合研究所)の解釈と分析で表現したものです。

2019年 著作権所有 SRL(半導体総合研究所)

SRL Monthly Report

2019年5月(毎月1回発行)第30巻5号(通巻359号)

発行元:株式会社 SRL
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35
TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023
編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

May 2019, No.358

Semicon Research Ltd.
3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014
Japan Mail: info@semiconresearch.co.jp
Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2019

購読料金1年分(12号)98,000円(税別)